

特集 最近の農作物病害虫の発生動向

1 最近問題となった病害虫の発生について

はじめに

「食の安全性」を巡る関心が高まる中で、農業に関する農作物の安全性確保は急務となってきている。そこで、最近問題となった病害虫は何かということについて経過を比較検討し、早めに的確な防除対策を講じ、効率的な防除を実施することにより、環境負荷の軽減と損害の未然防止を図ることができるものとする。

問題となる病害虫の発生の特徴

イネの病害虫

近年のイネの病害虫対策として育苗箱施薬が主流となっている。箱施薬によりいもち病、ウンカ類に対し初期発生抑制に大きな効果を発揮している。しかし、箱施薬を実施しても、稲作後期に問題となる斑点米カメムシ、穂いもち等は抑制できない。発生に応じて有効な薬剤を適期に使用し、カメムシ対策としての畦の草刈り等の耕種的防除を組み合わせ、病害虫を総合的に管理する必要がある。

ダイズの病害虫

ダイズの中でも黒大豆は特産品として評価が高い。しかし近年、茎疫病や黒根腐病等の土壤伝染病が増加し、大きな被害が発生している。これらの病害に対しては、耕種的防除法や有効薬剤の検索等の総合防除対策確立に向けて試験を行っている。害虫ではハスモンヨトウが近年多発傾向にあり、生産地ではフェロモントラップによる地域予察に取り組んでいる。

果樹の病害虫

果実を加害するチャバネアオカメムシの発生が多くなっている。フェロモントラップ調査や予察灯調査を行って発生を把握しており、2002年と2004年には多数捕獲され、そのため注意報を発表して防除の推進を指導している。

野菜類の病害虫

アブラナ科野菜の害虫では、最近コナガに替わ

りネキリムシ類、キスジノミハムシ、ハスモンヨトウ、ハイマダラノメイガ等が発生し問題となっている。初期の加害により被害を及ぼす害虫は、ハイマダラノメイガのように気付いた時には既に手遅れであることが多いので、作付け前からの予察が重要である。レタスでは淡路地域においてビッグベイン病、バーティシリウム萎凋病等の難防除病害が発生し問題となっており、防除対策の確立に向けて取り組んでいる。

防除対策

①発生予察情報・防除情報の提供

定期的な巡回調査等を実施し、注意報等の病害虫情報を提供して、防除の推進を指導している。生育初期に加害が見られる害虫について、作付け前から予察灯やフェロモントラップによる密度の把握を行い、情報提供している。

②有効な防除方法の開発

カメムシについては誘引物質や忌避物質について研究を進めており、有望なフェロモン物質を特定するとともに、防除の手段として開発を進めている。ハイマダラノメイガについてはフェロモン剤を特定し、数種のヤガ類に有効な複合性フェロモンの交信攪乱効果の実証試験を実施している。光防除等の環境に優しい防除技術については普及拡大に努めている。レタスビッグベイン病については拮抗微生物農薬の開発を進めるとともに抵抗性品種の導入等検討している。

今後の方針

発生予察の実施により問題となる病害虫の把握に努めるとともに、安心安全な農作物生産を行うため、微生物農薬、物理的防除法など総合的な防除を実現するため研究開発を進める。

合田 薫（農業技セ・病害虫防除部）